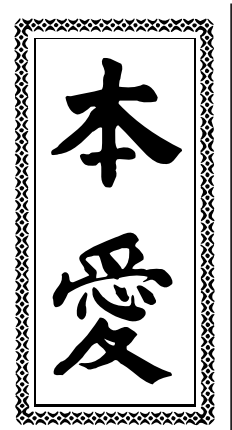


秋空の下 秋季大祭厳かに

本部員・永尾洋夫先生が巡教

大教会の秋季大祭は10月13日、晴天のご守護のもと、厳かに執行された。祭典終了後には、永尾洋夫・本部員による神殿講話が行われた。



発行
天理教本愛大教会
〒453-0821
名古屋市中村区大宮町1-60
TEL (052) 461-4326
MAIL mail@hon-ai.org
〒632-0071
奈良県天理市田井庄町19-1
TEL (0743) 62-0378
編集責任 広 報 部

最高気温が27度と、汗ばむほどの陽気となったこの日、立教183年の大教会秋季大祭は神殿で厳かに執り行われた。

祭典終了後、大教会長の挨拶に先立ち、永尾洋夫・本部員による神殿講話が行われた。永尾本部員は世界でいまだ収束の兆しが見えない新型コロナウイルスの感染拡大などについて、教理のうえから詳しく話した(次号に要旨掲載)。

なお、大教会では、アルコール消毒液とマスクが用意され、感染防止対策も行われた。

また、26日に本部神殿で執り行われた秋季大祭には、本愛からも大勢のようばく・信者が帰参した。

活動目標
喜びの旬
おたすけの日々
楽しみの道

具体的な相手を見据えたおたすけを

大教会会長挨拶(要旨)



本日は秋空の下、にぎやかに立教183年本愛大教会秋季大祭を勤めさせていただきました。本当にありがとうございました。

まず最初に、おぢばの打ち出しを申し上げさせていただきます。8月27日、表統領より「これからの道の歩み」という題でお話があ

り、これはこのコロナ禍で苦心している中で、今後どういうふうはこの道の歩みを進めていくべきか、どう活動すべきかという具体的なお話でございました。その中でここに表統領、つまりおぢばの本旨があるというところだけ、かいつまんでただ今から申し上げます。

まずお話の中で表統領が仰ったことは、6年後の教祖140年祭を目指して進むのは当然ですが、大きな目標とするのは、その10年後の教祖150年祭、そしてさらにその翌年の立教200年であり、そこに向かって中・長期的に思案をしていくことが大事だということでした。

また、私たちの今後やっていくべきことは、やはりおたすけの実践に尽きるということ、それがなかったら何も達成できないし、

(2面に続く)

入社祭	11月のこよみ
1日 午前10時	祭典後 教会長連絡会
よふき会例会	2日 午前10時
月次祭	13日 午前10時
布教実修所	14日 午前10時
むつみ会例会	16日 午前10時
婦人会例会	20日 午前10時
青年会例会	20日、21日
こかん様に続く会	22日 午前9時45分
本部月次祭	26日 午前9時

何も進みません。

表統領からは「まずは、

おたすけの実践の姿がある教会を目指さなければ、その目標は結局おつとめもにをいげても実現しない。あくまでも天理教の教会が目指す姿は、たすけ一条です。世の中の難儀のおたすけに尽くすことです。お道の活動はおたすけを中心に置いて考えれば、すべてが「つながりませ」という趣旨の言葉がありました。

そして、「これからのお道は、もっと一つひとつの教会に重点を置いて活動を考える必要があります。つまり、一つひとつの教会がもっと光らねばならないと思います。そして、今のままでは結果も気持ちも今ままで通り下降線に歯止めはかかりません。きつかけと切り替える決意が必要なのです。目指す具体的な姿、あるいは行う活動は、おつとめとか、ひのきしんとか、

にをいげとか、伏せ込みとか、そんな漠然とした表現ではなく、具体的なおたすけの相手や日々の実行項目を考えていかなければ実現しません。難しいのは分かります。しかし、そこを

考えていくしか実現の方法はないのです」というように、かなり踏み込んだお言葉でした。

実践の姿を描いて

こうしたお言葉を受け、今後どうやって大教会の歩みを進めていくのかということについては、まだ具体的なことを発表する段階にはありませんが、奉告祭に向けて、「喜びの旬 おたすけの日々 楽しみの道」と明確に打ち出して、それを目指に進んでいる私たち一人ひとりがかつかりと、「おたすけの日々」を送らせていただく。それも漠然とした相手にはなく具体的な相手やその家族も含め

た一人ひとりに注目して、家庭や職場の同僚、地域の方々をおたすけの相手として焦点を当てていく必要があると思います。

現在、コロナ禍は一応静まりつつはありますが、なかなか気が抜けない状態です。こうした情勢の中では、戸別訪問や路傍講演、神名流しもできないという現実の姿があります。

しかし、これも全てで親神

様からお与えいただいた私たちへのエールだということにも思います。そうしたことができないなら何をやるのか。それは今申し上げました具体的に焦点を当てたおたすけの活動というものが大事になってきます。来年3月はいよいよ六代会長のお運びであります。そして6月20日は就任奉告祭。それから翌々年は、大教会の創立110周年の三千年日に入ってきます。これは新しい会長を中心とした三

立教百八十三年

秋季大祭 祭典役割

令和二年十月十三日

祭主	祭者	指図	賛者	開扉	おつとめ役割		
					(座りづとめ)	(前半)	(後半)
大教会長	佐藤幸夫	板山公司	坂倉敏男	大教会長	安藤正二郎	塚原光男	
大教会長	安藤正二郎	筑紫英一	門田茂進	吉田佳子	桑原明美	石井富男	中山新一郎
青木健裕	上野昭裕	大倉八郎	松原正太郎	杉村善信	吉田美恵子	若杉美代	加藤ふみ
青木健裕	中山新一郎	細川孝一	板山正太郎	山本正太郎	伊藤藤寿	松浦よし江	津田かずみ
青木健裕	中山新一郎	細川孝一	板山正太郎	山本正太郎	伊藤藤寿	松浦よし江	津田かずみ
青木健裕	中山新一郎	細川孝一	板山正太郎	山本正太郎	伊藤藤寿	松浦よし江	津田かずみ

年千日になります。その時には本愛のそれぞれの教会や一人ひとりのようぼくが具体的な目標とおたすけの方向性をしっかりと定めていくことが大切です。すべての本愛部内教会がおたすけの実践の姿をはつきりと描いて、次の記念祭活動に移っていくということが、今の私たちに求められている大きな使命だと確信しています。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

教理随想

言わん言えんの理を探る



教祖は日々の信仰生活を種まきにたとえて教えてくださった。それはみかぐらうたの七下り目に示される通りです。

やしきハかみ
のでんぢやで
まいたるたね
ハみなはへる
(七下り目 8)

こゝハこのよのでんぢなら
わしもしつかりたね
をまこ
(同 9)

では、教祖は具体的に何を
もって「種まき」と仰せ
になるのでしょうか。その
悟り方の一つとして、てを
どりの手振りを考えてみま
しょう。

みかぐらうたで、「たね」という言葉は七下り目と十下り目に出てきますが、その手振りはいずれも両手の指先を胸に当てます。また

「こころ」という言葉がみかぐらうたに出てきますが、これも「たね」と同じ手振りです。このことから、日々の心の使い方が種になると悟ることが出来ます。

すなわち教えを定規として、心と身体を世界だすけや周囲の難渋だすけに使うこと。これが神の田地への種まきであり、後々の収穫となつてまいた人のところに返つてくることを教えられたのであります。

一方、初代会長様は、「人間の側から種まきと言うことはできない。日々実行する

るご恩報じの心を親神様が種として受け取ってください」と諭されました。つまり最初から収穫を期待して種をまくのではなく、常日頃頂戴しているご守護を思い起こし、そのご恩に報いる心で人だすけを実行することが、結果として「種まき」となり天に通じていくことを教えられたのです。

また教祖は次のようにもお話しくされました。「種を蒔くというのは、あちこち歩いて、天理王の話をして廻るのやで」。

常日頃からおたすけの機会をうかがつて話を聞いてもらえる相手を探し、一言ずつ教えを伝える。また職場や近隣で、親しい人に自分のご守護いただいた話を

積極的に取り次ぐ。こうした努力もまた、日々の種まきとして受け取っていただけるのであります。

■日々絶えず行う努力

さらには親神様への金銭のお供えにも「種まき」という性格があることを覚えておきたいものです。

給料にしても利益にしても、自分が苦労して働いて得たお金はすべて自分のものであり、それをどう使うかは自由と考える人が世の中の大半でしょう。しかし信仰が深まると思いが変わります。「健康で働けるのは親神様のご守護があるから」と自ずから感謝できるようになり、その結果、収入を全部自分のために使うのではなく、一部を世のため人のため、お道のために使わせてもらおうという心が湧いてきます。こうして使われた金銭が「種」となり、やがて我が身に幸せの

実が結ぶという姿で返ってくるのであります。

人は行き詰まった時や自分の力が及ばないと感じた時、神にすがりご守護を願うものですが、種をまかずに作物の収穫ができないのと同じように、親神様の不思議な働きをいただくには、日々の種まきをおろそかにしては十分なご守護をいただくことはできません。

種まきで大切なことは、日々絶えず行う努力であります。一度のご守護だけでやめてしまつたり、あるいは一時だけたくさんまいて、あとはしないというまき方では、末永いご守護は望めません。毎日の生活の中で親神様から頂戴しているご恩に報いる心を養い、自分の周囲で困っている人、難儀している人に勇気を出しておたすけの手を差し伸べましょう。それが陽気ぐらしへつながら本當の種まきであります。

【第 71 回】

ご恩報じの精神と実践が
陽気ぐらしの種となる

陽気への感謝
 キーワード
感謝
慎み
たすけあい

12月の初席者
 本宏(本宏津) 阿部 信行
 本則武 高橋良太郎
 以上2名

9月のおさづけの理拝戴者
 本晃(本和倉) 祖父江幸夫
 以上1名

修養科第949期修了者
 本穂 黒川 武義
 以上1名

第949期
 7月 山本正太郎(本定)
 8月 長尾 誠(本西部)
 9月 大橋善太郎(本美幸)
 右の各氏が教養掛を務めた。

本愛大教会 公式ホームページ開設!



<https://hon-ai.org>

大教会からのお知らせ
 沿革、大教会へのアクセス
 本愛誌バックナンバーのダウンロード

出口道男氏(大教会理事・本名分教会四代会長)
 9月26日に出直された。
 享年82歳。告別式は9月28日午後1時より、大教会長を齋主として同分教会で執り行われた。
 氏は大教会理事、会長室長、詰所主任などを務めた。

大教会日誌

令和2年9月25日～令和2年10月24日

9月

- 25日 修養科志願者面接 (於・本愛詰所)
- 26日 本部月次祭
- 30日 常任役員会議◇役員会議
- 12日 常任役員会議
- 13日 秋季大祭
- 祭主・大教会長 扨者・佐藤幸夫、安藤正二郎

10月

- 1日 入社祭
- 祭主・大教会長 扨者・桑子 保、加藤成幸
- 指図方・佐藤幸夫 賛者・出口邦郎、野田正樹
- ◇おたすけ講話—松浦道太郎
- ◇教会長連絡会
- 2日 よふき会例会
- おつとめ・十二下りてをどり
- ◇祭典講話—本部員・永尾洋夫先生
- ◇大教会長挨拶
- 14日 布教実修所
- 16日 むつみ会例会
- 17日 こども食堂MOGU (参加者53人)
- 19日 ほんあいOKEIKO
- 20日 婦人会例会